

「地域社会の参加・協働による保全管理」への取組み状況

1. 住民アンケート調査について

(1) 調査概要

今後の世界遺産登録に関する施策や取組をより地域の実情に沿ったものとするため、やんばる地域（沖縄島北部）及び西表島の居住者を対象として、平成 29 年 9 月～10 月（11 月まで回収・集計）にかけて世界自然遺産登録に関する意識調査を実施した。

沖縄島北部では配布件数 4,673 件（全戸配布）のうち 462 件（回収率：約 9.9%）、西表島では配布件数 1,258 件（全戸配布）のうち 252 件（回収率：約 20.0%）の回答を得た。

(2) 調査結果

各地域のアンケート結果において、特徴的な点を下記に記す。（詳細は参考資料を参照）

表. アンケート結果の特徴的な点

観点	沖縄島北部	西表島
回答者の属性	年齢：50 代以上が 80%程度 職業：無職、農業、主婦の順に多い	年齢：30 代～60 代が各 20%程度 職業：観光ガイド、宿泊業、主婦、無職の順に多い
世界遺産推薦の認知	約 94%の方が認知	約 94%の方が認知
遺産登録への意識	約 63%が世界遺産登録に好意的	約 28%が世界遺産登録に好意的
地域の課題	1. 人口減少・少子高齢化 2. 経済活動の低迷 3. ノイヌ・ノネコの多さ	1. 海の自然環境の劣化 2. 山や川の自然環境の劣化 3. ゴミの散乱
世界遺産登録により期待できること	・地域の知名度や人気が高まる →約 75%の方が期待	・地域の知名度や人気が高まる →80%程度の方が期待
	・貴重な自然や動植物が守られる ・美しい自然が守られる →各々 60%以上の方が期待	・貴重な自然や動植物が守られる ・美しい自然が守られる →各々 20%程度の方が期待
	・観光関連の収益が増える →約 53%の方が期待 ・地域経済の活性化と雇用増 →約 33%の方が期待	・観光関連の収益が増える →70%程度の方が期待 ・地域経済の活性化と雇用増 →40%程度の方が期待
世界遺産登録により懸念または心配すること	・自然環境の劣化 ・生きものの交通事故増 ・希少生物の無断採取増 →60～70%程度が懸念・心配	・自然環境の劣化 ・生きものの交通事故増 ・希少生物の無断採取増 →75～95%の方が懸念・心配 「とても思う」が 50%程度
	・観光客によるゴミのポイ捨て増 ・観光案内所やトイレの不足 →70～80%の方が懸念・心配	・ポイ捨てやゴミの量の増加 ・観光施設やトイレの不足 →80～90%の方が懸念・心配 「とても思う」が 50%程度
	・交通量が増え、道路が混雑する ・観光客が生活圏に入り騒がしい →45～55%の方が懸念・心配	・バスや船が混雑する ・観光客が生活圏に入り騒がしい →80%程度の方が懸念・心配 「とても思う」が 50%程度

(3) 世界自然遺産に関する住民意識の現状と課題

- ・アンケート回答率は、沖縄島北部では約 9.9%、西表島では約 20%であった。世界自然遺産登録への関心が低いためアンケートに回答していない無関心層が存在する可能性がある。
- ・アンケートに回答した方の多くは、世界自然遺産への推薦を既に認知していた。一方で、前述のように遺産登録に関心が低い方も多いため、普及啓発活動を継続し、より多くの方に関心を持ってもらうことが重要。
- ・西表島では島の自然がとても大切に思われており、陸域、海域を問わず自然環境の劣化が最も重要な課題として認識されている。一方で、世界遺産登録が自然環境の保全につながることは認識されておらず、期待が薄い現状にある。逆に世界遺産登録によって自然環境の劣化や生き物への影響が増大するという懸念・心配を持つ人が大変多い。世界自然遺産に向けた取組においては、西表島の自然環境の保全を確実に進め、地域住民の理解を得ていく必要がある。
- ・西表島の課題としては観光マナーの悪さやゴミの散乱も比較的多く挙げられており、多くの方が世界遺産登録によって観光客が増加することにより、観光施設や生活・交通インフラの不足、住環境の悪化が生じることを懸念・心配していた。西表島においては、過剰な観光利用は自然環境へ大きな影響を与えると考えられているため、自然環境の劣化への懸念・心配は観光客の増加への懸念・心配と結びついていると推測される。観光客の増加に対応したインフラの整備や自然環境の保全策の充実が求められていると考えられる。
- ・世界遺産登録により、地域の知名度が高まることや観光業が潤うことへの期待感はある程度持たれている。ただし、地域経済の活性化や農産物・加工品の売上増への期待はそれよりも低く、観光による経済効果を地域に波及させていくための取組を行うことが重要だと考えられる。
- ・上記のようなことを踏まえて、遺産登録を否定的に捉えている方の割合が高くなっていると考えられる。今後は上記のような住民の期待や懸念・心配を踏まえた上で世界自然遺産に向けた取組を着実にその改善につなげるとともに、その具体的な取組内容や成果について情報発信を行い、地域住民の理解を得ていく必要があると考えられる。

2. 普及啓発に関連する事業の取組状況と次年度の予定について

行動計画の 事業項目	実施主 体	事業名	対象地	事業概要 <関係する会議体>	平成 29 年度の実施内容	平成 30 年度事業内容（案）
6) 地域社会の参加・協働による保全管理						
3 地域住 民、観光客等 への普及啓 発・教育の推 進	環境省	イリオモテヤマ ネコ普及啓発イ ベント	西表島	島内の小中学生を対象とし て、イリオモテヤマネコの 生態や保護活動の取組につ いて紹介し、保護の意識向 上を目的にしたイベントを 開催。	○西表島の東部と西部で各1回イ ベントを開催し、70人が参加。 ○ポスターやパンフレットの作成及 び掲示・配布、その他交通事故防 止に関する普及啓発を実施。	○夏休み等の長期休暇を利用して野生 生物保護センター内にてイベントを 開催予定
	竹富町 (政策推 進課) 環境省	地元住民への説 明会	西表島	世界自然遺産にかかる説明 会を集落毎に開催し、質疑 や意見交換をおこなう。	○西表島島内の各公民館(14地区) で住民説明会を開催し、世界自然 遺産の概要を説明するとともに、 意見交換を行った。	○世界自然遺産登録の動向に合わせて 適宜住民説明会を開催し、新たな情報 提供を行う。
	林野庁西 表森林生 態系保全 センター	森林保全管理等	西表島内の 小中学校	毎年「自然環境教育のため の連絡会」を開催し、「西表 島での自然環境教育カリキ ュラム」を活用した自然環 境教育の実施状況及び今後 の活用計画について報告。	○船浦・大原中学校及び白浜小学校 の学校行事を支援 ○大原小学校へ新しく赴任した先生 への西表島の森林環境についての 研修	○船浦・大原中学校及び白浜小学校の学 校行事を支援 ○小・中学校へ新しく赴任した先生への 西表島の森林環境についての研修
	沖縄県 (自然保 護課)	世界自然遺産普 及啓発委託業務	西表島を含 む沖縄県全 域	沖縄島北部や西表島の遺産 価値を県内外にPRするた めの映像コンテンツや、そ 他の普及啓発媒体を作成・ 提供し、地域住民を始めと する一般市民への普及啓 発を図り、世界自然遺産登 録に向けた機運を高める。	○一般県民に加えて遺産推薦地の住 民へ重点を置き、普及啓発を実施 した。(フォーラム開催、写真展 開催、広報誌掲載、地域イベント 出展等) ○前年度に引き続き既存ツールを利用 した普及啓発を実施するととも に、新デザインポスター、マグネ ットステッカー及びのぼりの作 成、SNS及び4町村広報誌を活用 した普及啓発等を行った。	○世界遺産委員会登録発表パブリック ビューイングの開催(鹿児島県連携) ○登録記念イベントの開催 ○パンフレットの遺産登録版への更新 ○4町村広報誌を活用した普及啓 ○モノレールラッピングを活用した一 般県民、観光客等への普及啓

行動計画の 事業項目	実施主 体	事業名	対象地	事業概要 ＜関係する会議体＞	平成 29 年度の実施内容	平成 30 年度事業内容（案）
	沖 縄 県 （自然保 護課）	地域部会運営支 援業務	西表島	地域部会における検討状況 や世界遺産登録に向けた動 きなどについて住民に情報 発信を行うとともに、アン ケート調査を行い住民意識 を把握する。	○西表島住民を対象として遺産登録 前の意識調査（アンケート）を実 施した。 ○「西表島世界遺産だより」を発行 し、地域住民への情報発信を行っ た。（1回発行済、3月に次号発行 予定）	○西表島住民を対象として遺産登録可 否決定後の意識調査（アンケート）を 実施する。 ○「西表島世界遺産だより」を発行し、 地域住民への情報発信を行う。
	西表島エ コツーリ ズム協会	西表島の文化を 紹介したパンフ レットの配布と ウェブサイトの 運営	西表島全域	西表島の自然の保護と持続 的な利用のために不可欠な 文化についての普及啓発を 行う。	○「文化と旅する西表島」パンフレッ トの配布を行った。 ○「文化と旅する西表島」ウェブサイ トの運営を行った。	○「文化と旅する西表島」パンフレッ トの配布を行った。 ○「文化と旅する西表島」ウェブサイ トの運営を行った。